国際社会学部

田邊 佳美

Yoshimi TANABE
現代世界論コース／フランス
国際社会学

2013年の国際女性デー。反レイシズム・反トランス差別など、様々な「女性」の連帯を提起。

国際社会学とは

社会学はその始まりから「社会」（と「個人」の関わり）をその学問対象としてきましたが、そこでは無意識に国民社会が想定されてきました。そのように、社会学の思考を規定してきた国民国家という枠組みを批判的に再検討し、そこからズレたり超越する現象・プロセス・構造・主体に着目するのが国際社会学です。具体的な研究対象となるのは、国民国家それ自体やナショナリズムに加えて、国際移動（移民）の現象やトランスナショナリズム、それを担う移住者や外国人、そして国民共同体から周辺化されるマイノリティの経験や権利のあり方、さらにはマジョリティの権力や特権です。

研究紹介

これまで、主にフランスの旧植民地出身移民やその子孫の社会運動に着目した研究を進めてきました。それらの運動では、特に女性や若い活動家を中心に、それまで国際社会学や移民研究において中心化されてきた市民権やレイシズム・階級の問題だけではなく、フェミニズムや性的マイノリティの権利なども提起され、運動のあり方を方向づけています。そのため、私自身の分析においても人種・ジェンダー・セクシュアリティ・階級などの絡み合う権力関係を理解するための交差的な視点（インターセクショナリティ）を重視してきました。

　また、社会において非主流の言語・文化・記憶を背景とする移住者や、それを継承するマイノリティは、その視点や経験を排除・周辺化する社会において、自らの記憶や知恵を武器に固有の立場から社会を眼差してきました。記憶の社会学やポストコロニアル・デコロニアル思想などに依拠しながら、マイノリティと知／権力の関係に関わる分析もしています。

2023年3月。パリでの反年金改革のデモと移民当事者・支援者のデモ。

担当授業

- 国際社会学
- 移民と国家の社会学
- フランスにおける移民・難民の政治
- インターセクショナリティの理論と実践
- 地域基礎（パリを通してみるフランス社会――都市社会学）
- フランス語科目（初級・中級）

関連する分野

- 移民・難民研究
- ジェンダー・セクシュアリティ研究
- インターセクショナリティ／交差性
- 社会運動論
- 民族誌的研究・質的調査法
- ポストコロニアル・デコロニアル思想

出版物

- 『La Marche de 1983. De la mémoire à l'histoire d'une mobilisation collective』（共著）
- 『Invisible Cultures: Historical and Archaeological Perspectives』（共著）

国際社会学部

国際社会学ゼミ

パリ20区・ベルヴィル。歴史的に労働者階級が居住し、ユダヤ系・スペイン系・アラブ系などのコミュニティがある。20世紀後半には、ベトナムや中国の東部と北東部からのアジア系移民も加わり、パリの中華街の一つを成す。

どのようなゼミか

本ゼミでは、国際社会学の視点から、現代における個人と社会の関係やその構造を考察します。教員の専門地域はフランスですが、国際社会学的な分析は様々な地域に応用可能であるため、異なる専攻地域の学生が集まっています。国際社会学の視点から、国民国家が作り出し維持しようとする境界を再検討し、その狭間や周辺部から中心（国民／マジョリティ）を問い直す視点を身につけます。

国際社会学の射程は広く、国際移動やシティズンシップ／国籍などの中心的課題に加えて、ナショナリズムや排外主義／レイシズム、戸籍や国籍、移住者・マイノリティの越境的コミュニティやネットワーク、国際結婚や多文化家族など多様な問題に対して、ジェンダー・セクシュアリティ・人種・階級などの概念を通してアプローチします。また、研究方法としては、生活史や参与観察などの質的社会調査法を中心に、表象・言説分析の方法なども学んでいきます。

　本ゼミを通じて、脱国民的な視点や当事者の視点から社会を眼差す方法を理解し、様々な社会課題を複眼的に捉える力を身につけてほしいと思っています。

卒論

- 『日本社会における戸籍・国籍制度と「家族」の関係性』
- 『現代日本社会における育児と男らしさ』
- 『多拠点居住をめぐる社会学的考察』
- 『移動する人々の複合的・流動的なホームの姿を捉える』
- 『アロマンティック/アセクシャル・スペクトラム当事者のコミュニティ形成』

おススメの本

- 陳天璽著『無国籍』
- 森千香子『排除と抵抗の郊外』
- シバ.M.ジョージ（伊藤るり監訳）『女が先に移り住むとき』
- 徐阿貴『在日朝鮮人女性による「下位の対抗的な公共圏」の形成』
- Guénif-Souilamas, Nacira & Eric Macé, *Les féministes et le garçon arabe.*

（現代世界論コース　田邊佳美ゼミ）

国際社会学と聞いて、どんなイメージが浮かびますか？ぱっと答えにくいかもしれません。例えば紛争のニュースを見聞きして、「現地の人は今、どんなふうに生きているんだろう？例えば女性は？移民は？労働者は？」と考えたことがあるなら、本ゼミでの学びが合うのではと思います。ゼミ生はそれぞれ異なる問題関心を持っていますが、社会全体の大きな流れを掴みつつ、そこで生きる個々に目を向ける人が多いです。授業内容は文献購読とディスカッションが中心です。大きな特徴は二つ。一つ目はゼミ生の関心に合わせて文献が選ばれるところ。毎年多様な学生が集まりますが、先生がそれぞれに合ったテーマで本を用意してくれます。二つ目はディスカッションが盛んなところ。背景には安心して発言できる空気感があります。「自信がないな」と思いながら言ったことでも、先生をはじめとしたメンバーが真摯に受け止めてくれます。文献の分からなかった部分を皆で考えたり、内容に引き付けて自身の体験を共有したり、議論は多岐に渡ります。

　ピクニックや懇親会もあり、先生や先輩への相談もしやすい環境です。（F さん）